

Theme Symposium | 競技スポーツ研究部会 | 【課題B】競技スポーツにおけるコーチ養成をいかに効果的に行うか

Coach training for junior competitive sports

Chair: Kiwamu Kotani

Thu. Aug 31, 2023 10:10 AM - 12:10 PM RYB1 (良心館地下1階 R Y B 1 番教室)

本横断領域部会における解決すべき上位の課題のひとつが「競技スポーツにおけるコーチ養成をいかに行うか」である。日本では、子どもたちの豊かなスポーツ活動を整備するため、運動部活動の地域連携や地域スポーツクラブ活動連携がすすめられている。その一方、ヒューマン・ライツ・ウォッチの報告では、日本の子どもがスポーツのなかで、暴力等の虐待を経験することが多く、その結果、スポーツが痛みや恐怖、苦痛をもたらす経験となっていることが指摘されている。このように、日本のジュニア（育成年代）競技は、コーチによるプレーヤーへの暴力等の虐待を含む、様々な課題を抱えたまま、組織的な移行期をむかえているといえる。もちろん、組織的な移行自体が課題解決の一方策ではあるものの、それだけでは子どもたちの豊かなスポーツ活動の実現には繋がらないことは明白である。そこで、本シンポジウムでは「ジュニア（育成年代）競技スポーツのコーチ養成」をテーマとして設定し、コーチ養成のシステム、指導法、コーチのキャリアパスの視点からジュニア（育成年代）競技スポーツのコーチ養成にまつわる課題を洗い出し、今後のコーチ養成について議論する。

[競技スポーツ-SB-1]Instructor development system of Japan Football Association

*Seidai Nishikawa¹ (1. Japan Football Association)

<演者略歴>

2022-現在 公益財団法人日本サッカー協会 指導者養成ダイレクター

2021 同上 ユース育成サブダイレクター

2017-2021 同上 JFAコーチ 関東地域担当

本シンポジウムでは「ジュニア（育成年代）競技スポーツのコーチ養成」のなかでも、「コーチ養成システム」について公益財団法人日本サッカー協会（以下、JFA）の事例を紹介する。JFAは「サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する」という理念のもと、代表強化・ユース育成・指導者養成・普及の“四位一体”を掲げている。指導者養成は、指導者養成講習会・チューター制度・リフレッシュ研修会の3つを柱に事業を展開している。指導者養成講習会は、子どもを対象としたD級ライセンスからプロ選手を対象にしたS級ライセンスまでのコアとなるライセンスに加え、指導者の多様な学びのニーズに対応すべく、ゴールキーパーやフィジカルなどポジションや分野に特化したライセンスも提供している。育成年代に特化したライセンスも2007年から始めており、今年これらを更にブラッシュアップしたところである。これらJFAの指導者養成システムの現状と今後について紹介し、これからの日本全体のジュニア（育成年代）競技スポーツのコーチ養成のありかたについて議論したい。